

## AWS Certified Solutions Architect - Associate (SAA-C03) 試験ガイド

### はじめに

AWS Certified Solutions Architect - Associate (SAA-C03) 試験は、ソリューションアーキテクトのロールを担う個人を対象としています。受験者はこの試験で、AWS Well-Architected Framework に基づくソリューション設計時に AWS のテクノロジーを使用する能力を検証されます。

また、次のタスクについての受験者の能力も検証されます。

- 現在のビジネス要件と将来予測されるニーズを満たすように AWS のサービスを組み込んだソリューションを設計する。
- 安全性、耐障害性、高パフォーマンス、コスト最適化を実現したアーキテクチャを設計する。
- 既存のソリューションをレビューし、改善点を判断する。

### 受験対象者について

受験対象者には、AWS のサービスを使用するクラウドソリューション設計の実務経験が 1 年以上必要です。

試験の対象となる可能性のある特定のツールとテクノロジーの詳細なリスト、および対象範囲内外の AWS のサービスのリストについては、付録を参照してください。

### 試験内容

#### 回答タイプ

試験には次の 2 種類の設問があります。

- **択一選択問題**: 正しい選択肢が 1 つ、誤った選択肢（不正解）が 3 つ提示される
- **複数選択問題**: 5 つ以上の選択肢のうち、正解が 2 つ以上ある

設問の記述に最もよく当てはまるもの、または正解となるものを選択します。不正解の選択肢は、知識や技術が不十分な受験者が選択してしまいそうな、設問内容と一致するもっともらしい回答になっています。

未回答の設問は不正解とみなされます。推測による回答にペナルティはありません。試験にはスコアに影響する設問が 50 問含まれています。

#### 採点対象外の内容

試験には、スコアに影響しない採点対象外の設問が 15 問含まれています。AWS では、これら採点対象外の設問における受験者の成績に関する情報を収集し、これらの設問を今後採点対象の設問として使用できるかどうかを評価します。試験では、どの設問が採点対象外かは受験者にわからないようになっています。

## 試験の結果

AWS Certified Solutions Architect - Associate 試験は、合否判定方式の試験です。試験の採点は、認定業界のベストプラクティスおよびガイドラインに基づいた、AWS の専門家によって定められる最低基準に照らして行われます。

試験の結果は、100～1,000 のスケールスコアとして報告されます。合格スコアは 720 です。このスコアにより、試験全体の成績と合否がわかります。複数の試験間で難易度がわずかに異なる可能性があるため、スコアを均等化するためにスケールスコアが使用されます。

スコアレポートには、各セクションの成績を示す分類表が含まれる場合があります。この情報は、試験の成績に関する全般的なフィードバックを提供するものです。試験には補正スコアリングモデルが使用されるため、セクションごとに合否ラインは設定されておらず、試験全体のスコアで合否が判定されます。

試験の各セクションには特定の重みが設定されているため、各セクションに割り当てられる設問数が異なる場合があります。分類表には、受験者の得意な部分と弱点を示す全般的な情報が含まれます。セクションごとのフィードバックを解釈する際は注意してください。合格者には、この追加情報は提供されません。

## 内容の概要

この試験ガイドには、セクションに設定された重み、試験分野、タスクステートメントについての説明が含まれています。試験内容の包括的なリストを提供するものではありませんが、各タスクステートメントの追加情報を使って、試験の準備に役立てることができます。次の表に、主なコンテンツドメインとそれぞれの重みを示します。この表の後に、追加情報を含む試験内容の全概要が続きます。各ドメインのパーセンテージが表しているのは、採点対象の設問のみです。

分野	出題の比率
第 1 分野: セキュアなアーキテクチャの設計	30%
第 2 分野: 弾力性に優れたアーキテクチャの設計	26%
第 3 分野: 高パフォーマンスなアーキテクチャの設計	24%
第 4 分野: コストを最適化したアーキテクチャの設計	20%
合計	100%

## 第 1 分野: セキュアなアーキテクチャの設計

タスクステートメント 1: AWS リソースへのセキュアなアクセスを設計する。

次に関する知識:

- 複数のアカウントにまたがるアクセス制御と管理
- AWS フェデレーテッドアクセスおよび ID サービス (AWS Identity and Access Management [IAM]、AWS Single Sign-On [AWS SSO] など)
- AWS のグローバルインフラストラクチャ (アベイラビリティゾーン、AWS リージョンなど)
- AWS セキュリティのベストプラクティス (最小権限の原則など)
- AWS 責任共有モデル

次のスキル:

- AWS セキュリティのベストプラクティスを IAM ユーザーとルートユーザーに適用する (多要素認証 (MFA) など)
- IAM ユーザー、グループ、ロール、ポリシーを含む柔軟な認証モデルを設計する
- ロールベースのアクセスコントロール戦略 (AWS Security Token Service (AWS STS)、ロールスイッチング、クロスアカウントアクセスなど) を設計する
- 複数の AWS アカウント (AWS Control Tower、サービスコントロールポリシー [SCP] など) のセキュリティ戦略を設計する
- AWS のサービスに対するリソースポリシーの適切な使用を判断する
- IAM ロールを使用して Directory Service をフェデレートする場面を判断する

タスクステートメント 2: セキュアなワークロードとアプリケーションを設計する。

次に関する知識:

- アプリケーション設定と認証情報のセキュリティ
- AWS サービスエンドポイント
- AWS でポート、プロトコル、ネットワークトラフィックを制御する
- セキュアなアプリケーションアクセス
- セキュリティサービスの適切なユースケース (Amazon Cognito、Amazon GuardDuty、Amazon Macie など)
- AWS 外部の脅威ベクトル (DDoS、SQL インジェクションなど)

次のスキル:

- セキュリティコンポーネント (セキュリティグループ、ルートテーブル、ネットワーク ACL、NAT ゲートウェイなど) を使用した VPC アーキテクチャの設計
- ネットワークセグメンテーション戦略の決定 (パブリックサブネットとプライベートサブネットの使用など)
- AWS のサービスを統合してアプリケーションをセキュアにする (AWS Shield、AWS WAF、AWS SSO、AWS Secrets Manager など)
- AWS クラウドと外部ネットワーク接続を保護する (VPN、AWS Direct Connect など)

タスクステートメント 3: 適切なデータセキュリティ管理を判断する。

次に関する知識:

- データアクセスとガバナンス
- データ復旧
- データ保持と分類
- 暗号化と適切なキー管理

次のスキル:

- コンプライアンス要件を満たすために AWS テクノロジーを調整する
- 保存時のデータを暗号化する (例: AWS Key Management Service [AWS KMS] など)
- 転送中のデータを暗号化する (TLS を使用した AWS Certificate Manager [ACM] など)
- 暗号化キーにアクセスポリシーを実装する
- データバックアップとレプリケーションを実装する
- データアクセス、ライフサイクル、保護に関するポリシーを実装する
- 暗号化キーのローテーションと証明書の更新

## 第 2 分野: 弾力性に優れたアーキテクチャの設計

タスクステートメント 1: スケーラブルで疎結合なアーキテクチャを設計する。

次に関する知識:

- API の作成と管理 (Amazon API Gateway、REST API など)
- AWS マネージドサービスの適切なユースケース (AWS Transfer Family、Amazon Simple Queue Service [Amazon SQS]、Secrets Manager など)
- キャッシュ戦略
- マイクロサービスの設計原則 (ステートレスワークロードとステートフルワークロードの比較など)
- イベント駆動型アーキテクチャ
- 垂直スケーリングと水平スケーリング
- エッジアクセラレーター (コンテンツ配信ネットワーク [CDN] など) を適切に使用方法
- アプリケーションをコンテナに移行する方法
- ロードバランシングの概念 (Application Load Balancer など)
- 多層アーキテクチャ
- キューイングとメッセージングの概念 (パブリッシュ/サブスクライブなど)
- サーバーレステクノロジーとパターン (AWS Fargate、AWS Lambda など)
- ストレージの種類とその特性 (オブジェクト、ファイル、ブロックなど)
- コンテナのオーケストレーション (Amazon Elastic Container Service [Amazon ECS]、Amazon Elastic Kubernetes Service [Amazon EKS] など)
- リードレプリカを使用するタイミング
- ワークフローオーケストレーション (AWS Step Functions など)

次のスキル：

- 要件に基づいたイベント駆動型、マイクロサービス、多層アーキテクチャの設計
- アーキテクチャ設計で使用されるコンポーネントのスケーリング戦略の決定
- 要件に基づいて、疎結合を実現するために必要な AWS のサービスを決定する
- コンテナを使用する場面を判断する
- サーバーレステクノロジーとパターンを使用する場面を判断する
- 要件に基づいて適切なコンピューティング、ストレージ、ネットワーク、データベーステクノロジーを推奨する
- ワークロードに特化した AWS のサービスを使用する

タスクステートメント 2: 高可用性、フォールトトレラントなアーキテクチャを設計する。

次にに関する知識：

- AWS のグローバルインフラストラクチャ（アベイラビリティゾーン、AWS リージョン、Amazon Route 53 など）
- AWS マネージドサービスの適切なユースケース（Amazon Comprehend、Amazon Polly など）
- ネットワークの基本概念（ルートテーブルなど）
- 災害対策（DR）戦略（バックアップと復元、パイロットライト、ウォームスタンバイ、Active-Active フェイルオーバー、目標復旧時点 [RPO]、目標復旧時間 [RTO] など）
- 分散型設計パターン
- フェイルオーバー戦略
- イミュータブルインフラストラクチャ
- ロードバランシングの概念（Application Load Balancer など）
- プロキシの概念（Amazon RDS プロキシなど）
- Service Quotas とスロットリング（スタンバイ環境でワークロードの Service Quotas を構成する方法など）
- ストレージオプションとその特性（耐久性、レプリケーションなど）
- ワークロードの可視性（AWS X-Ray など）

次のスキル：

- インフラストラクチャの整合性を確保するオートメーション戦略を決定する
- AWS リージョンまたはアベイラビリティゾーン全体にわたって、可用性が高く耐障害性のあるアーキテクチャを提供するのに必要な AWS のサービスを決定する
- ビジネス要件に基づいてメトリクスを特定し、可用性の高いソリューションを提供する
- 単一障害点を軽減する設計を実装する
- データの耐久性と可用性を確保するための戦略（バックアップなど）を実装する
- ビジネス要件を満たす適切な DR 戦略を選択する
- レガシーアプリケーションやクラウドに最適化されていないアプリケーション（アプリケーションの変更が不可能な場合など）の信頼性を向上させるために AWS サービスを利用する
- ワークロードに特化した AWS のサービスを使用する

### 第 3 分野: 高パフォーマンスなアーキテクチャの設計

タスクステートメント 1: 高パフォーマンスでスケーラブルなストレージソリューションを選択する。

次に関する知識:

- ビジネス要件を満たすハイブリッドストレージソリューション
- ストレージサービスの適切なユースケース (Amazon S3、Amazon Elastic File System [Amazon EFS]、Amazon Elastic Block Store [Amazon EBS] など)
- ストレージの種類とその特性 (オブジェクト、ファイル、ブロックなど)

次のスキル:

- パフォーマンス要件を満たすストレージサービスと設定を決定する
- 将来のニーズに合わせてスケールできるストレージサービスを特定する

タスクステートメント 2: 高パフォーマンスで伸縮性があるコンピューティングソリューションを設計する。

次に関する知識:

- AWS コンピューティングサービスの適切なユースケース (AWS Batch、Amazon EMR、Fargate など)
- AWS グローバルインフラストラクチャとエッジサービスによって提供される分散コンピューティングの概念
- キューイングとメッセージングの概念 (パブリッシュ/サブスクライブなど)
- 適切なユースケースによるスケーラビリティ機能 (Amazon EC2 Auto Scaling、AWS Auto Scaling など)
- サーバーレステクノロジーとパターン (Lambda、Fargate など)
- コンテナのオーケストレーション (Amazon ECS、Amazon EKS など)

次のスキル:

- コンポーネントを個別にスケールできるようにワークロードを疎結合にする
- スケーリングアクションを実行するメトリクスと条件を特定する
- ビジネス要件を満たす適切なコンピューティングオプションと機能 (EC2 インスタンスタイプなど) を選択する
- ビジネス要件を満たす適切なリソースタイプとサイズ (Lambda メモリの容量など) を選択する

タスクステートメント 3: 高パフォーマンスなデータベースソリューションを選択する。

次に関する知識:

- AWS グローバルインフラストラクチャ (アベイラビリティゾーン、AWS リージョンなど)
- キャッシュ戦略とサービス (Amazon ElastiCache など)
- データアクセスパターン (読み取り集約型と書き込み集中型など)
- データベースキャパシティプランニング (キャパシティユニット、インスタンスタイプ、プロビジョンド IOPS など)
- データベース接続とプロキシ
- データベースエンジンの適切なユースケース (異種間移行、同種間移行など)

- データベースレプリケーション（リードレプリカなど）
- データベースタイプとサービス（サーバーレス、リレーショナル、非リレーショナル、インメモリなど）

次のスキル：

- ビジネス要件を満たすようにリードレプリカを設定する
- データベースアーキテクチャを設計する
- 適切なデータベースエンジンを決定する（MySQL と PostgreSQL の比較など）
- 適切なデータベースタイプを決定する（Amazon Aurora、Amazon DynamoDB など）
- ビジネス要件に合わせたキャッシングの統合

タスクステートメント 4: 高パフォーマンスでスケーラブルなネットワークアーキテクチャを選択する。

次に関する知識：

- エッジネットワークサービスの適切なユースケース（Amazon CloudFront、AWS Global Accelerator など）
- ネットワークアーキテクチャの設計方法（サブネット層、ルーティング、IP アドレス指定など）
- ロードバランシングの概念（Application Load Balancer など）
- ネットワーク接続オプション（AWS VPN、Direct Connect、AWS PrivateLink など）

次のスキル：

- さまざまなアーキテクチャ（グローバル、ハイブリッド、多層など）のネットワークトポロジを作成する
- 将来のニーズに合わせてスケールできるネットワーク設定を決定する
- ビジネス要件を満たす適切なリソース配置を決定する
- 適切なロードバランシング戦略を選択する

タスクステートメント 5: 高パフォーマンスなデータ取り込みと変換のソリューションを選択する。

次に関する知識：

- データ分析および視覚化サービスの適切なユースケース（Amazon Athena、AWS Lake Formation、Amazon QuickSight など）
- データ取り込みパターン（頻度など）
- データ転送サービスの適切なユースケース（AWS DataSync、AWS Storage Gateway など）
- データ変換サービスの適切なユースケース（AWS Glue など）
- 取り込みアクセスポイントへのセキュアなアクセス
- ビジネス要件に必要なサイズと速度
- ストリーミングデータサービスの適切なユースケース（Amazon Kinesis など）

次のスキル：

- データレイクを構築および保護する
- データストリーミングアーキテクチャを設計する
- データ転送ソリューションの設計
- 可視化戦略を実装する
- データ処理に適したコンピューティングオプション（Amazon EMR など）を選択する



- 取り込みに適した設定を選択する
- 形式間でデータを変換する（.csv から.parquet など）

## 第 4 分野：コストを最適化したアーキテクチャの設計

タスクステートメント 1: コストを最適化したストレージソリューションを設計する。

次にに関する知識：

- アクセスオプション（リクエスト支払いのオブジェクトストレージを持つ S3 バケットなど）
- AWS コスト管理サービスの機能（コスト配分タグ、マルチアカウント請求など）
- AWS コスト管理ツールの適切なユースケース（AWS Cost Explorer、AWS Budgets、AWS Cost and Usage Report など）
- AWS ストレージサービスの適切なユースケース（Amazon FSx、Amazon EFS、Amazon S3、Amazon EBS など）
- バックアップ戦略
- ブロックストレージオプション（ハードディスクドライブ [HDD] ポリウムタイプ、ソリッドステートドライブ [SSD] ポリウムタイプなど）
- データライフサイクル
- ハイブリッドストレージオプション（DataSync、Transfer Family、Storage Gateway など）
- ストレージアクセスパターン
- ストレージ階層化（オブジェクトストレージのコールド階層化など）
- ストレージの種類とその特性（オブジェクト、ファイル、ブロックなど）

次のスキル：

- 適切なストレージ戦略の設計（Amazon S3 へのバッチアップロードと個別のアップロードとの比較など）
- ワークロードに適したストレージサイズを決定する
- ワークロードのデータを AWS ストレージに転送する際に最もコストが低い方法を判断する
- ストレージのオートスケーリングが必要な場面を判断する
- S3 オブジェクトのライフサイクルを管理する
- 適切なバックアップとアーカイブソリューションを選択する
- ストレージサービスへのデータ移行に適したサービスを選択する
- 適切なストレージ階層を選択する
- ストレージに適切なデータライフサイクルを選択する
- ワークロードに応じて最も費用対効果の高いストレージサービスを選択する



タスクステートメント 2: コストを最適化したコンピューティングソリューションを設計する。

次に関する知識:

- AWS コスト管理サービスの機能 (コスト配分タグ、マルチアカウント請求など)
- AWS コスト管理ツールの適切なユースケース (Cost Explorer、AWS Budgets、AWS Cost and Usage Report など)
- AWS グローバルインフラストラクチャ (アベイラビリティゾーン、AWS リージョンなど)
- AWS 購入オプション (スポットインスタンス、リザーブドインスタンス、Savings Plans など)
- 分散コンピューティング戦略 (エッジ処理など)
- ハイブリッドコンピューティングオプション (AWS Outposts、AWS Snowball Edge など)
- インスタンスタイプ、ファミリー、サイズ (メモリ最適化、コンピューティング最適化、仮想化など)
- コンピューティング使用率の最適化 (コンテナ、サーバーレスコンピューティング、マイクロサービスなど)
- スケーリング戦略 (Auto Scaling、休止状態など)

次のスキル:

- 適切なロードバランシング戦略を判断する (Application Load Balancer [レイヤー 7]、Network Load Balancer [レイヤー 4]、Gateway Load Balancer の比較など)
- 伸縮性のあるワークロードのための適切なスケーリング方法と戦略を決定する (水平と垂直の比較、EC2 の休止状態など)
- 費用対効果の高い AWS コンピューティングサービスをユースケースに応じて決定する (Lambda、Amazon EC2、Fargate など)
- さまざまなクラスのワークロード (本番ワークロード、非本番ワークロードなど) に必要な可用性を判断する
- ワークロードに適したインスタンスファミリーを選択する
- ワークロードに適したインスタンスサイズを選択する

タスクステートメント 3: コストを最適化したデータベースソリューションを設計する。

次に関する知識:

- AWS コスト管理サービスの機能 (コスト配分タグ、マルチアカウント請求など)
- AWS コスト管理ツールの適切なユースケース (Cost Explorer、AWS Budgets、AWS Cost and Usage Report など)
- キャッシュ戦略
- データ保持ポリシー
- データベースキャパシティプランニング (キャパシティユニットなど)
- データベース接続とプロキシ
- データベースエンジンの適切なユースケース (異種間移行、同種間移行など)
- データベースレプリケーション (リードレプリカなど)
- データベースタイプとサービス (リレーショナルと非リレーショナル、Aurora、DynamoDB の比較など)

次のスキル:

- 適切なバックアップポリシーと保持ポリシー（スナップショットの頻度など）を設計する
- 適切なデータベースエンジンを決定する（MySQL と PostgreSQL の比較など）
- 費用対効果の高い AWS データベースサービスをユースケースに応じて決定する（DynamoDB と Amazon RDS、サーバーレスとの比較など）
- 費用対効果の高い AWS データベースタイプ（時系列形式、列指向形式など）を決定する
- 異なるデータベーススキーマまたは、異なるデータベースエンジンに移行する

タスクステートメント 4: コストを最適化したネットワークアーキテクチャを設計する

次にに関する知識:

- AWS コスト管理サービスの機能（コスト配分タグ、マルチアカウント請求など）
- AWS コスト管理ツールの適切なユースケース（Cost Explorer、AWS Budgets、AWS Cost and Usage Report など）
- ロードバランシングの概念（Application Load Balancer など）
- NAT ゲートウェイ（NAT インスタンスと NAT ゲートウェイのコスト比較など）
- ネットワーク接続（プライベート回線、専用回線、VPN など）
- ネットワークルーティング、トポロジ、ピアリング（AWS Transit Gateway、VPC ピアリングなど）
- ネットワークサービスの適切なユースケース（DNS など）

次のスキル:

- 適切な NAT ゲートウェイタイプ（1 つの共有 NAT ゲートウェイと各アベイラビリティゾーンの NAT ゲートウェイの比較など）を設定する
- 適切なネットワーク接続を設定する（Direct Connect、VPN、インターネットの比較など）
- ネットワーク転送コストを最小限に抑えるために適切なネットワークルートを設定する（リージョン間、アベイラビリティゾーン間、プライベートからパブリック、Global Accelerator、VPC エンドポイントなど）
- コンテンツ配信ネットワーク（CDN）とエッジキャッシュに対する戦略的ニーズを判断する
- 既存のワークロードをレビューしてネットワークを最適化する
- 適切なスロットリング戦略を選択する
- ネットワークデバイスに適切な帯域幅割り当てを選択する（単一の VPN と複数の VPN の比較、Direct Connect の速度など）

## 付録

### 試験の対象となる主要なツール、テクノロジー、概念

以下は、試験に出る可能性のあるツールとテクノロジーの限定的なリストです。このリストは変更される場合がありますが、試験におけるサービスや機能、テクノロジーの一般的な範囲を理解していただくために提供されています。このリストに含まれる一般的なツールとテクノロジーは、順不同で掲載されています。AWS のサービスは、主な機能に基づいてグループ化されています。試験では、一部のテクノロジーが他のテクノロジーよりも多く取り上げられる可能性があります。このリストでの掲載順序は、各テクノロジーの相対的な重みや重要性を示すものではありません。

- コンピューティング
- コスト管理
- データベース
- 災害対策
- 高パフォーマンス
- マネジメントとガバナンス
- マイクロサービスとコンポーネントのデカップリング
- 移行とデータの転送
- ネットワーク、接続、コンテンツ配信
- 回復性
- セキュリティ
- サーバーレスでイベント駆動型の設計原則
- ストレージ

### AWS のサービスと機能

#### 分析

- Amazon Athena
- AWS Data Exchange
- AWS Data Pipeline
- Amazon EMR
- AWS Glue
- Amazon Kinesis
- AWS Lake Formation
- Amazon Managed Streaming for Apache Kafka (Amazon MSK)
- Amazon OpenSearch Service (Amazon Elasticsearch Service)
- Amazon QuickSight
- Amazon Redshift

#### アプリケーション統合:

- Amazon AppFlow
- AWS AppSync
- Amazon EventBridge (Amazon CloudWatch Events)
- Amazon MQ
- Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS)
- Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS)
- AWS Step Functions

#### AWS コスト管理:

- AWS Budgets
- AWS Cost and Usage Report
- AWS Cost Explorer
- Savings Plans

#### コンピューティング:

- AWS Batch
- Amazon EC2
- Amazon EC2 Auto Scaling
- AWS Elastic Beanstalk
- AWS Outposts
- AWS Serverless Application Repository
- VMware Cloud on AWS
- AWS Wavelength

#### コンテナ

- Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR)
- Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS)
- Amazon ECS Anywhere
- Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS)
- Amazon EKS Anywhere
- Amazon EKS Distro

#### データベース:

- Amazon Aurora
- Amazon Aurora Serverless
- Amazon DocumentDB (with MongoDB compatibility)
- Amazon DynamoDB
- Amazon ElastiCache
- Amazon Keyspaces (for Apache Cassandra)
- Amazon Neptune
- Amazon Quantum Ledger Database (Amazon QLDB)
- Amazon RDS
- Amazon Redshift
- Amazon Timestream

#### デベロッパーツール:

- AWS X-Ray

#### フロントエンドのウェブとモバイル

- AWS Amplify
- Amazon API Gateway
- AWS Device Farm
- Amazon Pinpoint

#### 機械学習:

- Amazon Comprehend
- Amazon Forecast
- Amazon Fraud Detector
- Amazon Kendra
- Amazon Lex
- Amazon Polly
- Amazon Rekognition
- Amazon SageMaker
- Amazon Textract
- Amazon Transcribe
- Amazon Translate

#### マネジメントとガバナンス:

- AWS Auto Scaling
- AWS CloudFormation
- AWS CloudTrail
- Amazon CloudWatch
- AWS Command Line Interface (AWS CLI)
- AWS Compute Optimizer
- AWS Config
- AWS Control Tower
- AWS License Manager
- Amazon Managed Grafana
- Amazon Managed Service for Prometheus
- AWS Management Console
- AWS Organizations
- AWS Personal Health Dashboard
- AWS Proton
- AWS Service Catalog
- AWS Systems Manager
- AWS Trusted Advisor
- AWS Well-Architected Tool

#### メディアサービス:

- Amazon Elastic Transcoder
- Amazon Kinesis Video Streams

#### 移行と転送:

- AWS Application Discovery Service
- AWS Application Migration Service (CloudEndure Migration)
- AWS Database Migration Service (AWS DMS)
- AWS DataSync
- AWS Migration Hub
- AWS Server Migration Service (AWS SMS)
- AWS Snow Family
- AWS Transfer Family

#### ネットワークとコンテンツ配信:

- Amazon CloudFront
- AWS Direct Connect
- Elastic Load Balancing (ELB)
- AWS Global Accelerator
- AWS PrivateLink
- Amazon Route 53
- AWS Transit Gateway
- Amazon VPC
- AWS VPN

#### セキュリティ、アイデンティティ、コンプライアンス:

- AWS Artifact
- AWS Audit Manager
- AWS Certificate Manager (ACM)
- AWS CloudHSM
- Amazon Cognito
- Amazon Detective
- AWS Directory Service
- AWS Firewall Manager
- Amazon GuardDuty
- AWS Identity and Access Management (IAM)
- Amazon Inspector
- AWS Key Management Service (AWS KMS)
- Amazon Macie
- AWS Network Firewall
- AWS Resource Access Manager (AWS RAM)
- AWS Secrets Manager
- AWS Security Hub
- AWS Shield
- AWS Single Sign-On
- AWS WAF

#### サーバーレス

- AWS AppSync
- AWS Fargate
- AWS Lambda

#### ストレージ:

- AWS Backup
- Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS)
- Amazon Elastic File System (Amazon EFS)
- Amazon FSx (すべてのタイプに対応)
- Amazon S3
- Amazon S3 Glacier
- AWS Storage Gateway

## 範囲外の AWS のサービスと機能

以下は、試験に取り上げられていない AWS のサービスと機能の非網羅的なリストです。これらのサービスと機能は、試験内容から除外されるすべての AWS のサービスを示すものではありません。

### 分析

- Amazon CloudSearch

### アプリケーション統合:

- Amazon Managed Workflows for Apache Airflow (Amazon MWAA)

### AR およびバーチャルリアリティ:

- Amazon Sumerian

### ブロックチェーン:

- Amazon Managed Blockchain

### コンピューティング:

- Amazon Lightsail

### データベース:

- Amazon RDS on VMware

### デベロッパーツール:

- AWS Cloud9
- AWS Cloud Development Kit (AWS CDK)
- AWS CloudShell
- AWS CodeArtifact
- AWS CodeBuild
- AWS CodeCommit
- AWS CodeDeploy
- Amazon CodeGuru
- AWS CodeStar
- Amazon Corretto
- AWS Fault Injection Simulator (AWS FIS)
- AWS のツールと SDK

### フロントエンドのウェブとモバイル

- Amazon Location Service

### ゲーム関連テクノロジー:

- Amazon GameLift
- Amazon Lumberyard

### IoT:

- すべてのサービス

### 機械学習:

- Apache MXNet on AWS



- Amazon Augmented AI (Amazon A2I)
- AWS DeepComposer
- AWS Deep Learning AMIs (DLAMI)
- AWS Deep Learning Containers
- AWS DeepLens
- AWS DeepRacer
- Amazon DevOps Guru
- Amazon Elastic Inference
- Amazon HealthLake
- AWS Inferentia
- Amazon Lookout for Equipment
- Amazon Lookout for Metrics
- Amazon Lookout for Vision
- Amazon Monitron
- AWS Panorama
- Amazon Personalize
- PyTorch on AWS
- Amazon SageMaker Data Wrangler
- Amazon SageMaker Ground Truth
- TensorFlow on AWS

#### マネジメントとガバナンス:

- AWS Chatbot
- AWS Console Mobile Application
- AWS Distro for OpenTelemetry
- AWS OpsWorks

#### メディアサービス:

- AWS Elemental Appliances and Software
- AWS Elemental MediaConnect
- AWS Elemental MediaConvert
- AWS Elemental MediaLive
- AWS Elemental MediaPackage
- AWS Elemental MediaStore
- AWS Elemental MediaTailor
- Amazon Interactive Video Service (Amazon IVS)

#### 移行と転送:

- Migration Evaluator (旧 TSO Logic)

#### ネットワークとコンテンツ配信:

- AWS App Mesh
- AWS Cloud Map

量子テクノロジー:

- Amazon Braket

ロボティクス:

- AWS RoboMaker

人工衛星:

- AWS Ground Station